

# 1 荒川区立図書館案内

## (1) 所在案内図

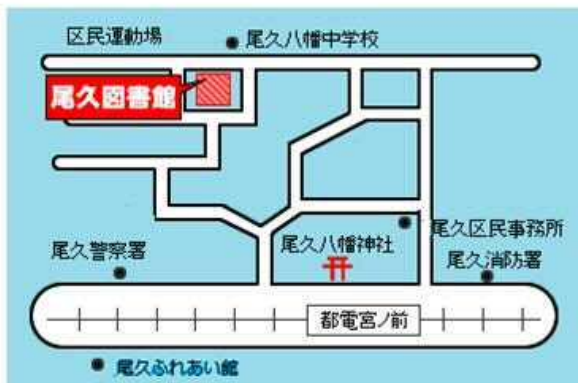
ゆいの森あらかわ（中央図書館）



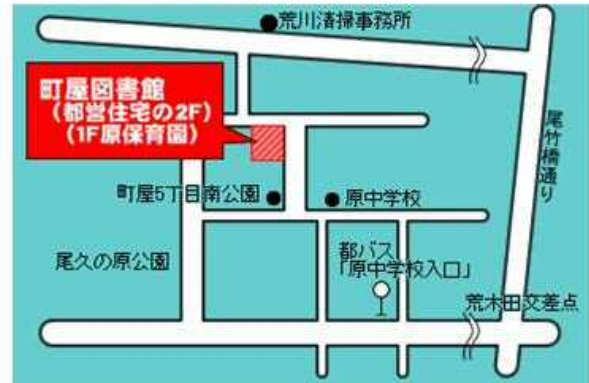
南千住図書館



尾久図書館



町屋図書館



日暮里図書館



汐入図書サービスステーション



冠新道図書サービスステーション

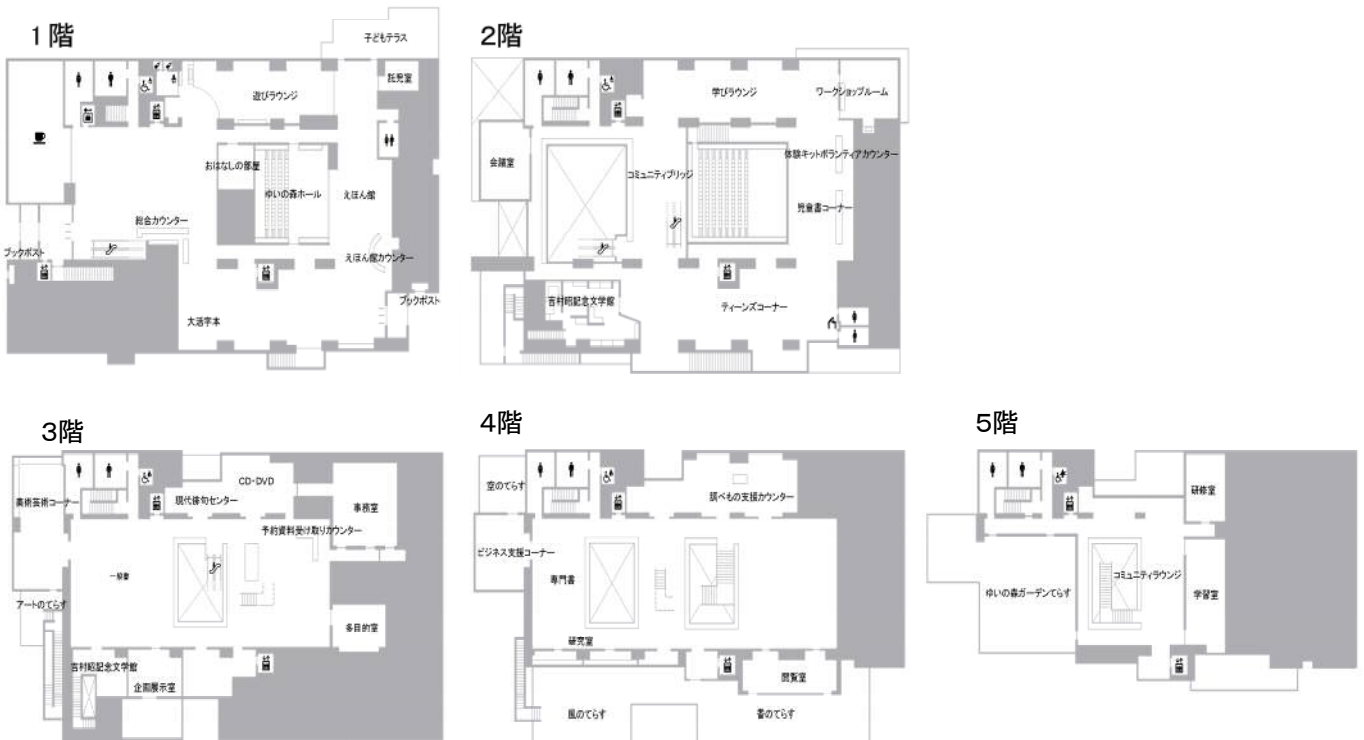


ゆいの森あらかわ (中央図書館)	荒川2-50-1 ☎ 03-3891-4349
南千住図書館	南千住6-63-1 ☎ 03-3807-9221
尾久図書館	西尾久3-12-12 ☎ 03-3800-5821
町屋図書館	町屋5-11-18 ☎ 03-3892-9821
日暮里図書館	東日暮里6-38-4 ☎ 03-3803-1645
汐入図書サービス ステーション	南千住8-12-5-114 べるばーと汐入東館1F ☎ 03-3807-8130
冠新道図書サービス ステーション	西日暮里6-25-14 ☎ 03-3800-3321

(2) 各図書館の施設概要(平成31年3月31日現在)

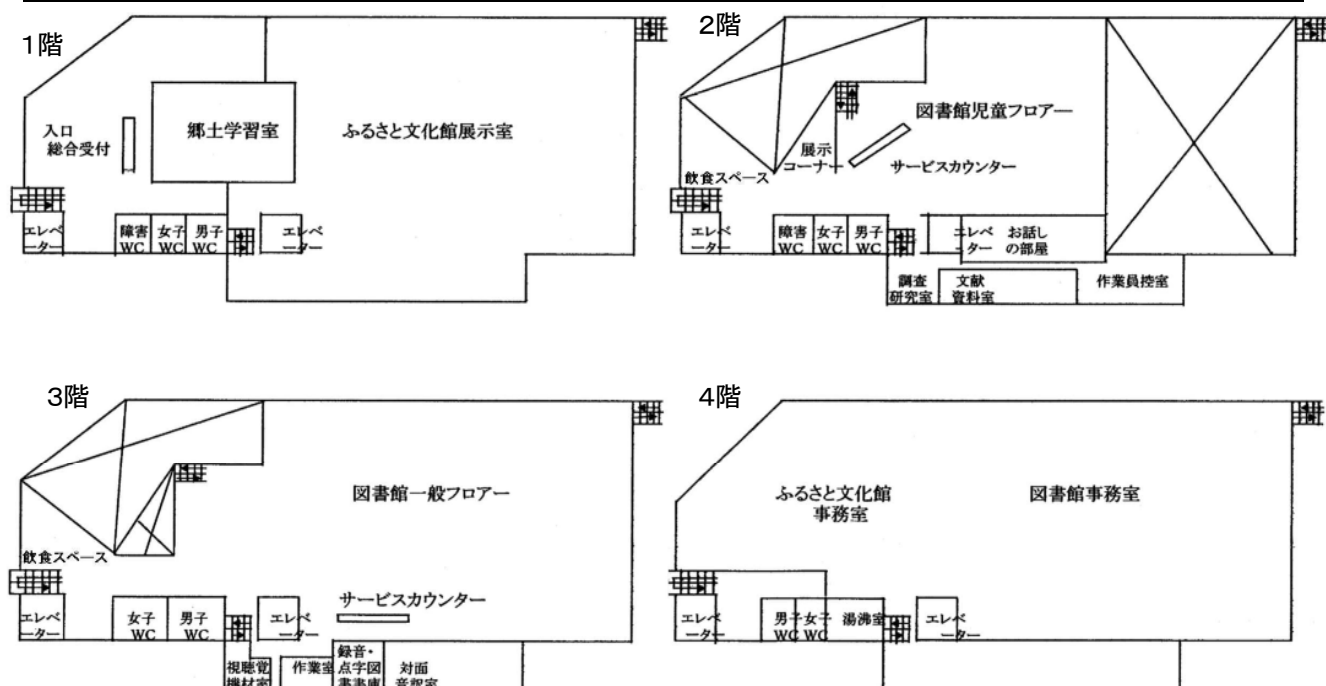
ア ゆいの森あらかわ(中央図書館)

所在地	荒川区荒川2-50-1	電話	03-3891-4349
開設年月日	平成29年3月26日	FAX	03-3891-4350
敷地面積	4,110.88㎡	建物	鉄筋コンクリート造 地上5階、地下1階 延床面積10,943.74㎡
交通機関	都電荒川線(東京さくらトラム)荒川二丁目(ゆいの森あらかわ前)停留場下車徒歩1分 東京メトロ千代田線町屋駅・京成上野線町屋駅下車徒歩8分 コミュニティバス「さくら」ゆいの森あらかわ停留所下車((土)・(日)・(祝)のみ運行)		
併設	吉村昭記念文学館(2階、3階)、ゆいの森子どもひろば(1階、2階)		
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、エスカレータ、多目的トイレ、対面音訳室、録音室、ベビーステーション、託児室、AED、発電機、備蓄倉庫		
座席数	914席(予約が必要な研究席(4階)、学習席(5階)を含む)		
無線LAN	ノートPC4台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	78名		
所蔵資料	一般書	271,454 冊	CD 10,975 点
	児童書	57,268 冊	DVD 1,536 点
	地域行政資料	28,252 冊	学校教育用ビデオDVD 75 点
	HS資料	3,362 冊	視聴覚資料計 12,586 点
	雑誌	21,404 誌	
	新聞	48 紙	
	蔵書冊数	381,740 冊	
利用状況	平成30年度個人登録者数	26,378 人	平成30年度入館者数 707,295 人
	平成30年度貸出利用者数	200,345 人	平成30年度総個人貸出点数 764,510 点
特色	約60万冊の蔵書規模を有する区の中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが一体となった、あらゆる世代が活用できる施設です。利用者が自ら学び、体験し、人と人が交流できる、地域の文化やコミュニティの拠点づくりを目指します。また、災害時には、妊産婦や乳児を中心とした避難所として活用できるよう、免震構造を採用し、発電機や備蓄倉庫を備えています。		



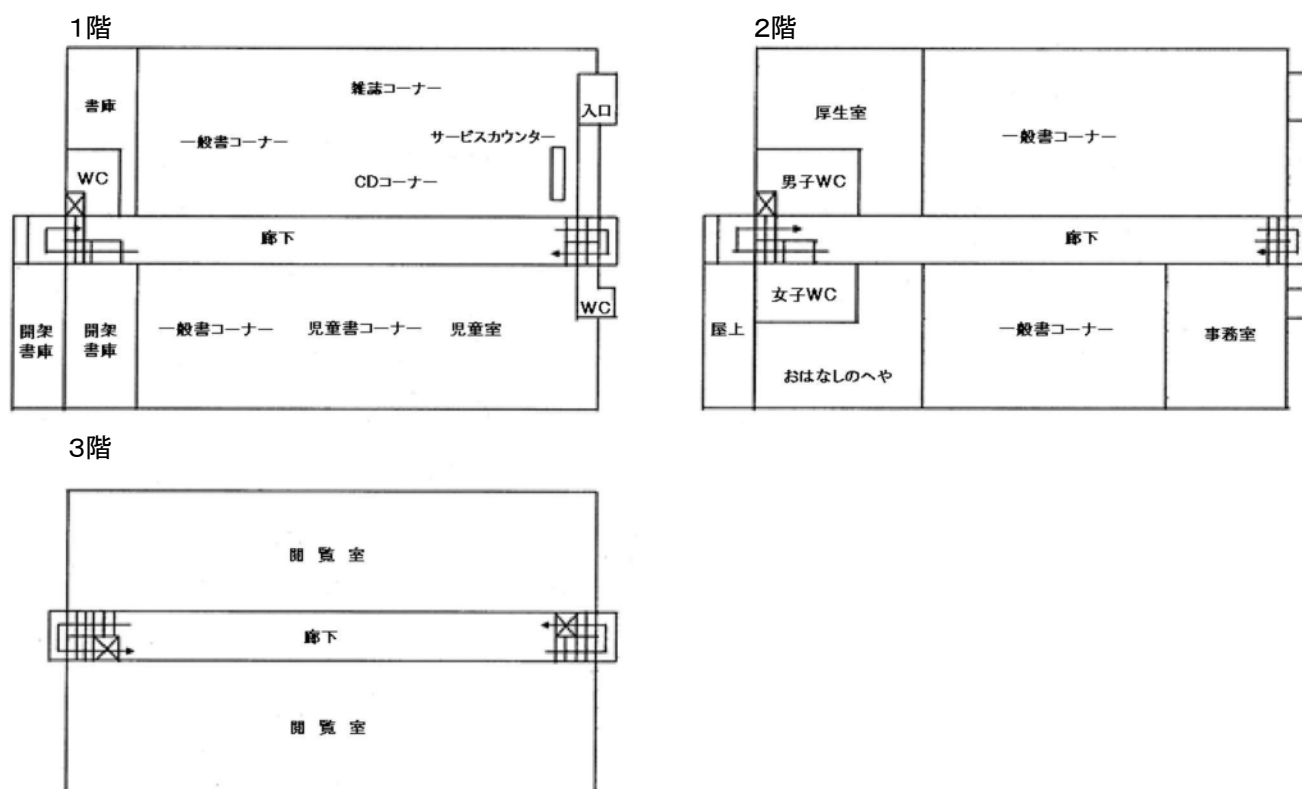
イ 南千住図書館

所在地	荒川区南千住6-63-1	電話	03-3807-9221
開設年月日	平成10年5月1日	FAX	03-3803-7744
敷地面積	2,723.96㎡	建物	鉄筋コンクリート造(一部鉄骨造)地上4階、地下1階、 塔屋のうち2階、3階、4階部分 延床面積2,686.10㎡、建物合計5,270.69㎡ (荒川ふるさと文化館延床面積2,584.59㎡)
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩10分 東京メトロ日比谷線三輪駅・都電荒川線三輪橋停留場下車徒歩15分 コミュニティバス「さくら」南千住図書館停留所下車徒歩2分 都バス千住大橋停留所下車徒歩2分 京成上野線千住大橋駅下車徒歩10分		
併設	荒川ふるさと文化館		
設備	点字ブロック、自動ドア、エレベータ、多目的トイレ、対面音訳室、防音室、ベビーステーション、AED		
座席数	146		
無線LAN	ノートPC4台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	34名(汐入図書サービスステーション含む)		
所蔵資料	一般書 96,929冊	CD 12,495点	
	児童書 32,064冊	カセットテープ 1,874点	
	地域行政資料 5,245冊	ビデオテープ 1,628点	
	HS資料 15冊	DVD 1,785点	
	雑誌 8,035冊	16ミリフィルム 919本	
	新聞 11紙	学校教育用ビデオDVD 77点	
	蔵書冊数 142,288冊	視聴覚資料計 18,778点	映写機 8台
利用状況	平成30年度個人登録者数 23,053人	平成30年度入館者数 262,155人	
	平成30年度貸出利用者数 94,458人	平成30年度総個人貸出点数 369,398点	
特色	区立図書館の中央館機能をゆいの森あらかわに移管した後も、28万冊の蔵書を収蔵可能な中規模館として運営しています。荒川区の歴史・文化を楽しみながら学び、探究できる荒川ふるさと文化館と共同した取組みを実施するとともに、「俳句のまち あらかわ」にちなんだ松尾芭蕉等に関連するコーナーを設置しています。		



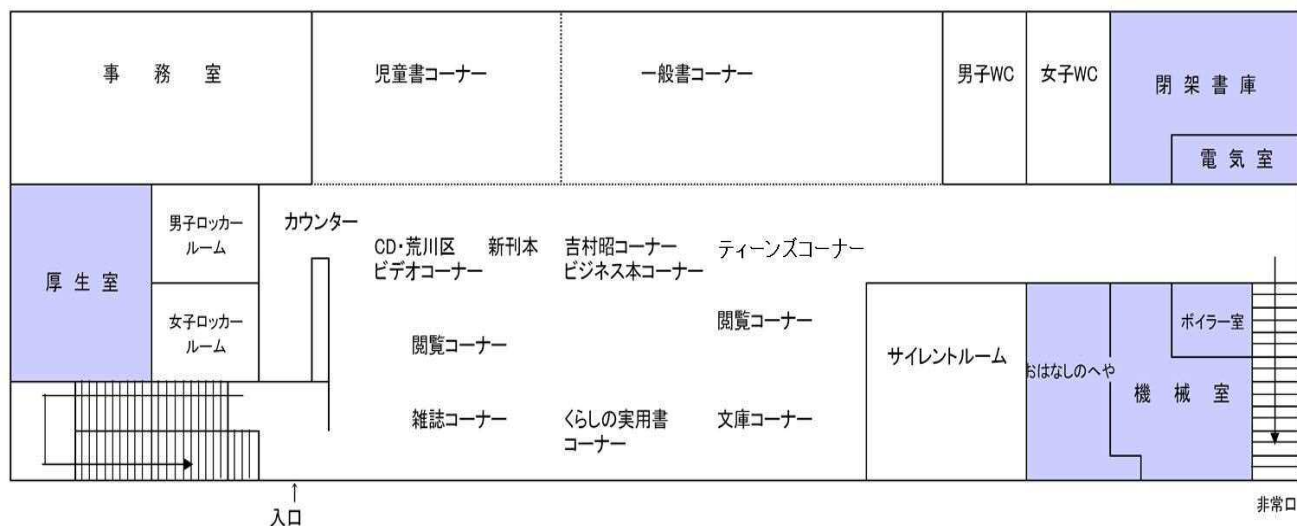
## ウ 尾久図書館

所在地	荒川区西尾久3-12-12	電話	03-3800-5821
開設年月日	昭和46年9月23日	FAX	03-3800-5822
敷地面積	1,328.94㎡	建物	鉄筋コンクリート3階建 延床面積1,201.82㎡
交通機関	都電荒川線宮ノ前停留場下車徒歩10分 都バス西尾久三丁目停留所下車徒歩10分		
併設	なし		
設備	スロープ、点字ブロック、自動ドア、多目的トイレ、ベビーステーション、AED		
座席数	135		
無線LAN	ノートPC3台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	14名		
所蔵資料	一般書	80,553冊	CD 7,800点
	児童書	23,302冊	視聴覚資料計 7,800点
	地域行政資料	1,737冊	
	HS資料	20冊	
	雑誌	7,180冊	
	新聞	11紙	
	蔵書冊数	112,792冊	
利用状況	平成30年度個人登録者数	10,872人	平成30年度入館者数 135,161人
	平成30年度貸出利用者数	55,149人	平成30年度総個人貸出点数 221,258点
特色	<p>区の北西部に位置し、尾久八幡神社や東京女子医大東医療センターに近く、閑静な住宅街の中にあり、小庭園もあって緑に囲まれた環境にあります。自然科学、医療、言語、海外文学などの図書を多く所蔵しています。3階の独立した学習室は、窓を大きくとってあり、開放的で人気があります。</p> <p>なお、尾久図書館については、現在、尾久地域に整備を進めている宮前公園の中に、地域のシンボルとなるような建物として令和2年度に移設・開館予定です。</p>		



## エ 町屋図書館

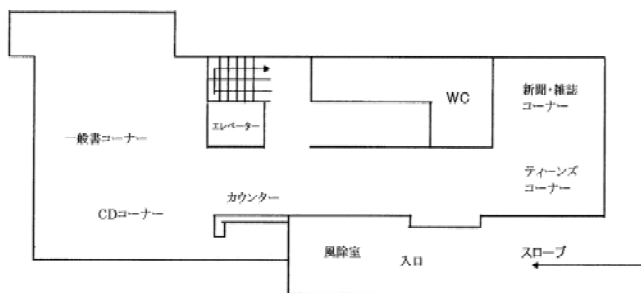
所在地	荒川区町屋5-11-18	電話	03-3892-9821
開設年月日	昭和51年10月1日	FAX	03-3892-9822
敷地面積	都営住宅敷地内	建物	鉄筋コンクリート3階建内2階部分 延床面積1,045.44㎡
交通機関	東京メトロ千代田線町屋駅・京成本線町屋駅下車徒歩20分 都電荒川線町屋駅前停留場下車徒歩20分 都バス原中学校入口停留所下車徒歩3分		
併設	原保育園、都営住宅		
設備	スロープ、車椅子昇降機、呼び出し用チャイム、ベビーステーション、AED		
座席数	95		
無線LAN	ノートPC3台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)		
職員数	14名		
所蔵資料	一般書	84,183 冊	CD 7,816 点
	児童書	26,225 冊	視聴覚資料計 7,816 点
	地域行政資料	1,738 冊	
	HS資料	11 冊	
	雑誌	8,004 冊	
	新聞	11 紙	
	蔵書冊数	120,161 冊	
利用状況	平成30年度個人登録者数	9,043 人	平成30年度入館者数 106,033 人
	平成30年度貸出利用者数	44,442 人	平成30年度総個人貸出点数 169,449 点
特色	都営住宅の2階において開館。階下には原保育園、前には原中学校、隣には公園、近くには隅田川・都立尾久の原公園・首都大学東京健康福祉学部があります。保育園・中学校と連携した事業を進めたり、公園でおはなし会を実施するなど、立地を生かした取り組みを進めています。 ワンフロアで明るく、文庫本、技術、環境、産業、日本文学などの図書を多く所蔵しています。		



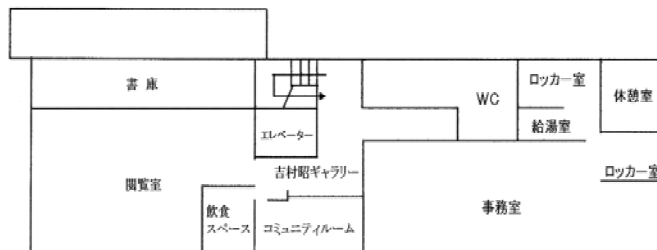
## オ 日暮里図書館

所在地	荒川区東日暮里6-38-4	電話	03-3803-1645	
開設年月日	昭和54年6月11日	FAX	03-3803-1646	
敷地面積	893.92㎡	建物	鉄筋コンクリート地上2階地下1階建 延床面積1,369.66㎡	
交通機関	JR 山手線・常磐線・京浜東北線日暮里駅下車徒歩10分 JR 常磐線三河島駅下車徒歩8分 京成本線日暮里駅下車徒歩10分 都バス大下停留所下車徒歩7分			
併設	なし			
設備	スロープ、点字ブロック、自動ドア、エレベータ、多目的トイレ、ベビーステーション、コミュニティルーム、飲食スペース、AED			
座席数	131			
無線LAN	ノートPC3台 ※全館無線LAN(FREE Wi-Fi)			
職員数	20名(冠新道図書サービスステーション含む)			
所蔵資料	一般書	59,231 冊	CD	6,391 点
	児童書	26,090 冊	視聴覚資料計	6,391 点
	地域行政資料	2,162 冊		
	HS資料	9冊		
	雑誌	6,841 冊		
	新聞	11 紙		
	蔵書冊数	94,333 冊		
利用状況	平成30年度個人登録者数	14,288 人	平成30年度入館者数	216,437 人
	平成30年度貸出利用者数	82,332 人	平成30年度総個人貸出点数	290,204 点
特色	<p>学生や仕事帰りの方によく利用されています。経済、民俗、ハングル図書などを多く所蔵しています。2階には、荒川区出身で区民栄誉賞を受賞した作家・吉村昭氏の著作や写真、自筆原稿などを展示した「吉村昭ギャラリー」があります。児童室の窓の外には、日暮里ゆかりの童話「夕やけこやけ」の世界が描かれた壁画があります。平成25年6月には、天皇陛下の行幸を賜り、吉村氏の震災関連の資料展示をご覧いただきました。平成29年度には大規模改修を行い、平成30年4月21日にリニューアルオープンしました。</p>			

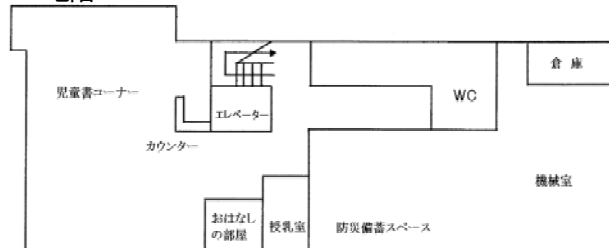
1階



2階

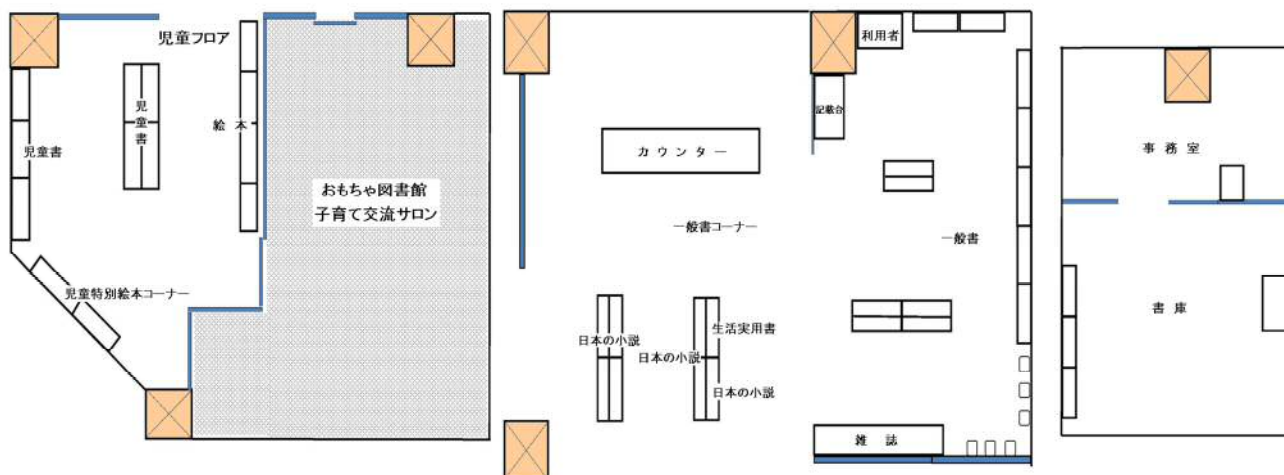


地階



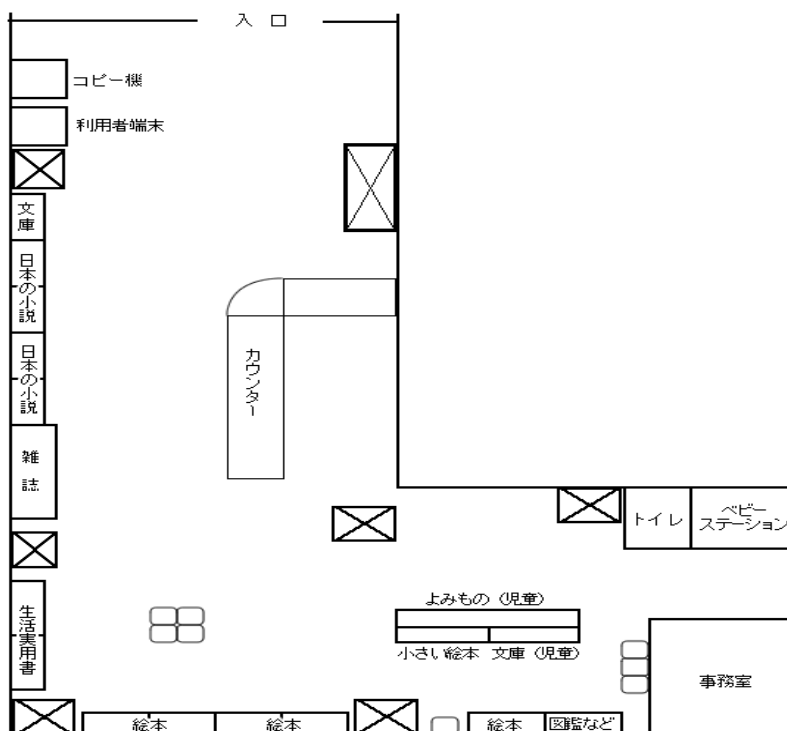
カ 汐入図書サービスステーション

所在地	荒川区南千住8-12-5-114 べるぽーと汐入東館1F	電話	03-3807-8130	
開設年月日	平成19年9月8日 (平成22年12月18日拡張) (平成25年10月1日拡充)	FAX	03-3807-8130	
		建物	鉄筋コンクリート造地上3階地下1階のうち1階 延床面積124.07㎡ (既存部分68.85㎡、拡張部分25.32㎡、 拡充部分29.90㎡)	
敷地面積	べるぽーと汐入東館内			
交通機関	JR常磐線南千住駅・東京メトロ日比谷線南千住駅・つくばエクスプレス南千住駅下車徒歩15分 都バス南千住汐入・はなみずき通り中央停留所下車徒歩2分 京成上野線京成関屋駅・東武伊勢崎線牛田駅下車徒歩10分			
併設	なし			
設備	なし			
座席数	8			
無線LAN	なし			
職員数	南千住図書館に含む			
所蔵資料	一般書	7,881冊	CD	0点
	児童書	5,605冊	視聴覚資料計	0点
	地域行政資料	142冊		
	HS資料	0冊		
	雑誌	438冊		
	新聞	0紙		
	蔵書冊数	14,066冊		
利用状況	平成30年度個人登録者数	5,400人	平成30年度入館者数	153,970人
	平成30年度貸出利用者数	57,255人	平成30年度総個人貸出点数	172,565点
特色	<p>南千住図書館から遠い汐入地域の区民に対する図書館サービスの充実と、急増する子育て世代の教育環境の整備のために、べるぽうと汐入商店街振興組合の空き店舗を借りて、南千住図書館の分室として活動しています。</p> <p>絵本や実用書、小説が主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに返すことができます。拡張した児童フロアは、荒川区社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館・子育て交流サロン」と隣接しています。</p>			



キ 冠新道図書サービスステーション

所在地	荒川区西日暮里6-25-14	電話	03-3800-3321
開設年月日	平成21年11月14日	FAX	03-3800-3321
敷地面積	マンション兼店舗ビル内	建物	鉄筋コンクリート造地上6階のうち1階 延床面積181.44㎡
交通機関	JR 山手線・京浜東北線西日暮里駅・東京メトロ千代田線西日暮里駅下車徒歩15分 都バス西日暮里六丁目・新三河島停留所下車徒歩2分 京成上野線新三河島駅下車徒歩5分 日暮里舎人ライナー西日暮里駅下車徒歩12分		
併設	なし		
設備	スロープ、自動ドア、ベビーステーション、AED、多目的トイレ		
座席数	11		
無線LAN	なし		
職員数	日暮里図書館に含む		
所蔵資料	一般書	5,597 冊	CD 0 点
	児童書	4,703 冊	視聴覚資料計 0 点
	地域行政資料	119 冊	
	HS資料	0 冊	
	雑誌	483 冊	
	新聞	0 紙	
	蔵書冊数	10,902 冊	
利用状況	平成30年度個人登録者数	2,709 人	平成30年度入館者数 61,917 人
	平成30年度貸出利用者数	31,496 人	平成30年度総個人貸出点数 101,014 点
特色	<p>日暮里図書館から遠い西日暮里地域の区民に対する図書館サービスの充実のために、冠新道商興会に面するマンション兼店舗1階の一室を借りて、日暮里図書館の分室として活動しています。</p> <p>絵本や実用書主体の小規模な分室ですが、区内の図書館の資料を取り寄せ、ここで借りて、ここに返すことができます。ベビーステーションを設置し、子ども連れの利用にも便利なため、多くの親子連れの方にご利用いただいています。</p>		





### (3) 図書館施設の充実に向けて

#### ア 新たな尾久図書館の建設

新たな尾久図書館は、令和2年度の開館を目指し、宮前公園から図書館内に気軽に立ち寄れる滞在型の図書館として整備を進めています。

館内には全世代が集える「ひろば」を整備し、新しい本や様々な人と出会う「世代間の交流」を推進します。

#### ○コンセプト

- ・日常的に利用できる身近な図書館  
尾久の特色を活かしつつ、日常的に利用できる身近な図書館を目指します。
- ・地域における生涯学習活動の拠点  
地域に関する資料、荒川区や地域にゆかりのある文学作品・文化芸術の選定・収集
- ・地域内の小・中学校、幼稚園、保育園、ひろば館、ふれあい館、高齢者施設等との連携・交流の拠点  
子どもから高齢者まであらゆる区民の方が読書に親しめる機会の提供及びネットワークの充実
- ・地域交流や情報収集・発信の拠点  
区役所各部課と連携した取組の提供や、図書館ボランティアをはじめとする地域活動拠点

#### ○主な特徴

##### (1)公園との融合

- ・公園と調和した一体的な整備
- ・公園を一望できるテラス席、館内にもバラ園を一望できる展望席を設置
- ・公園と連携したイベントができる多目的室の設置
- ・公園内での自然観察等と図書館での調べ学習の一体的実施

##### (2)読書・学習環境の充実

- ・席数を約300席に倍増
- ・グループ学習室を新設
- ・親が読み聞かせできるおはなしコーナーや飲食コーナーを新設

##### (3)安全・安心の確保

- ・障がい者等専用駐車場を新設
- ・多目的トイレを充実
- ・地震発生時に本が落下しにくい書架を採用



新しい図書館ができる宮前公園は、西尾久と東尾久に位置する都市計画公園です。新たな尾久図書館と同じく令和2年度の完成を目指しています。宮前公園は、防災公園としての性格を持ちつつ、既に開設済みの保育園に加え、テニスコートも併せて整備されることになっています。

#### ○スケジュール

令和元年度	建設工事
令和2年度	建設工事・開館(予定)

### イ ゆいの森あらかわ

平成29年3月26日に開館したゆいの森あらかわは、中央図書館・吉村昭記念文学館・ゆいの森子どもひろばが、一体となった、あらゆる世代が活用できる施設です。利用者が自ら学び、体験し、人と人とが交流できる、地域の文化やコミュニティの拠点づくりを目指します。

#### ○中央図書館機能

区の中央図書館と位置づけられる図書館は、約60万冊の蔵書規模の書架や900席を超える座席を備え、全ての世代の読書活動や課題解決の支援と、地域文化の情報発信の拠点とします。

- ・様々な課題解決を支援するレファレンスカウンターやビジネス支援カウンター、時事に沿った特集コーナー等の設置
- ・赤ちゃんから高齢者までだれもが楽しめる絵本館
- ・屋外テラス席や会話を楽しめるグループ席、静かに過ごせる緑陰読書席などの座席

#### ○吉村昭記念文学館機能

荒川区出身で「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」、「ポーツマスの旗」などで著名な小説家、吉村昭氏(昭和2年～平成18年)を紹介する吉村昭記念文学館は、吉村文学の魅力を広く発信し、その精神を次代へと引き継ぐこと、また、吉村文学をきっかけとして区の文化の更なる振興へとつなげる場を目指しています。

- ・生い立ちから「戦艦武蔵」発表までを時期別に紹介するほか、主な作品の舞台や取材地、作品に描かれたふるさと荒川区、妻であり作家の津村節子氏の文学世界等を紹介
- ・吉村氏の書斎を再現し、作品執筆の臨場感を演出
- ・紹介映像等の閲覧、展示解説等の実施
- ・企画展示室は、館全体の展示等のスペースとしても活用

#### ○ゆいの森子どもひろば機能

親子の安全な遊び場と小・中学生の居場所を中心に、科学実験やワークショップ等を通じて子どもたちの夢や生きる力を育みます。

- ・「体験キット」や「ワークショップ」等で、遊びから学びへとつなげる多様な体験事業を提供  
(体験事業例: 星空学習、環境学習、科学実験)
- ・安全な居場所として、乳幼児向けや小中学生向けの交流遊び場を提供
- ・乳幼児を対象に時間単位の託児を実施

#### ○防災機能

災害時に妊産婦や乳児を中心とした避難所として活用します。

- ・乳児等の避難所対応に必要な備蓄品のほか発電機を準備
- ・平常時から避難訓練、避難所開設訓練等を実施
- ・発災直後からこころのケア等、様々な課題に沿った本の提供体制を準備

## ○その他の機能

利便性の向上のため、その他様々なサービスを実施します。

- ・館内の本を持って入れるカフェ
- ・館内の全てのフロアに無線LANを完備
- ・インターネットで学習席やイベントを簡単予約
- ・新聞記事が検索できるデータベースの提供
- ・自動貸出機や読書履歴印刷機の設置

## ○平成30年度のイベント

### ・ゆいの森ホール(ゆいの森あらかわ主催・共催)

- 4月8日 設計者(梓設計)が語る「ゆいの森あらかわ」の魅力 ゆいの森 計画から実現まで 座談会
- 21日 子ども星空学習(春の星座)
- 28日 科学実験ショー(光とかげ)
- 29日 ガリレオ工房理科読ショー「光とかげはすてきなともだち」
- 5月27日 「読書を愛するまち・あらかわ」宣言セレモニー
- 6月10日 講演会「秘書だけが知る瀬戸内寂聴氏の素顔」瀬戸内寂聴氏秘書 瀬尾まなほ氏
- 23日 日本文学振興会講座「石田衣良」
- 7月～8月 夏休み日本舞踊教室(全6回)
- 8月8日 パチパチ紙芝居デー
- 11日 星空学習朗読会(夏の星座)(星の王子さま)
- 12日 じんじん 上映会、絵本「クロコダイルとイルカ」の読み聞かせ
- 19日 じんじん～其の二～上映会、絵本「雲をつかむはなし」の読み聞かせ
- 25日 絵本でつなぐ人と図書館のフォーラム
- 10月13日 子ども星空学習(秋の星座とギリシャ神話)
- 27日 秋野菜づくりのコツと裏ワザ講習会
- 27日 本のコーティング講習会
- 11月4日 おしどり文学館協定締結1周年記念講演会「果てなき往復書簡——編集者から見た吉村昭・津村節子」岩波書店前代表取締役社長
- 11日 第11回ティーンズイベント「金原瑞人さん講演会と10代によるビブリオバトル」
- 23日 朗読会「智恵子飛ぶ」(出演:竹下景子氏)
- 12月22日 0から3歳のためのクリスマス会
- 22日 4歳から未就学児のためのクリスマス会
- 22日 小学生のためのクリスマス会
- 22日 クリスマス上映会
- 1月4日 ゆいの森新春イベント ～日本舞踊ショー～
- 20日 星空学習朗読会(冬の星座)(双子の星)
- 25日 第11回柳田邦男絵本大賞
- 3月17日 学習院大学落語研究会「落語会」
- 21日 ガリレオ工房理科読ショー「音の不思議」
- 30日 ゆいの森開館2周年記念イベント「有馬朗人氏講演会」

・1階遊びラウンジ・おはなしの部屋等(子育て世代向け)

ゆいの森あらかわ1階遊びラウンジでは、未就学児とその保護者を対象に毎週金曜日、午前午後各回 15 分間の「親子あそびタイム」を開催しています。また、平成30年度から、遊びタイムを発展させ、より多彩なプログラムで親子の触れ合いを充実させる「なかよしタイム」を開催しています。また、1階おはなしの部屋では、毎週水曜日、職員とボランティアによる「おはなし会」を開催しています。さらに、子育て世代の育児を支援するため、保健師や外部講師による子育て講座を実施しています。

- 9月14日 子育て講座「マタニティプログラム (産前産後の過ごし方)」
- 28日 子育て講座「育児相談 (昼寝、夜泣き、離乳食等)」
- 10月6日 なかよしタイム「リトミック」
- 11月16日 子育て講座「マタニティプログラム (産前産後の過ごし方)」
- 1月11日 子育て講座「育児相談 (卒乳等)」
- 26日 なかよしタイム「節分製作とふれあいあそび」
- 3月8日 子育て講座「育児相談 (母乳、離乳食等)」



親子あそびタイム

・2階ワークショップルーム、学びラウンジ等(乳幼児・小中学生向け)

ゆいの森あらかわでは、荒川区立の小学校(24校)の4年生を対象に「あらかわ環境・未来体験学習」として、宇宙や星座について学べる星空学習、遊び感覚で学べる体験キット、大きなデジタル地球儀を体験してもらいました。

- 4月15日 「体験ワークショップ (水溶液をつくろう)」
- 22日 「学びラウンジボランティア講座 (理科読ショー準備講座)」
- 5月12日 「フラワーデザインワークショップ」
- 27日 「体験ワークショップ (空気の色)」
- 6月16日 「園芸基礎講座 (第1回)」
- 23日 「ものづくりワークショップ アクセサリーを作ろう (小学生対象)」
- 7月14日 「園芸基礎講座 (第2回)」
- 15日 「学びラウンジボランティア講座 (図書の検索)」
- 16日 「学びラウンジボランティア講座 (図書の検索)」
- 21日 「ものづくりワークショップ 藍染めでブックカバーを作ろう」
- 29日 「栽培ワークショップ 牛乳パックで豆苗を育てよう」
- 8月4日 「ものづくりワークショップ 藍染めでバンダナ (お弁当包み) を作ろう」
- 7日 「プログラミングワークショップ」
- 8日 「プログラミングワークショップ」
- 11日 「園芸基礎講座 (第3回)」
- 12日 「プラモデルワークショップ」
- 22日 「ものづくりワークショップ 絵手紙を作ろう」
- 26日 「科学工作ワークショップ 石のふしぎと光る粘土工作」
- 「プラモデルワークショップ」
- 28日 「地球教室 地震の話」



影絵ワークショップ

- 9月 2日 「園芸実践講座 (第1回)」
- 15日 「ものづくりワークショップ 万華鏡を作ろう」
- 29日 「ものづくりワークショップ ミニ盆栽を作ろう (成人対象)」
- 10月13日 「園芸実践講座 (第2回)」
- 21日 「栽培ワークショップ ペットボトルで苺を栽培しよう」
- 28日 「ものづくりワークショップ アクセサリーを作ろう (中高生対象)」
- 11月10日 「園芸実践講座 (第3回)」
- 25日 「園芸実践講座 (第4回)」
- 12月 1日 「ものづくりワークショップ アクセサリーを作ろう (成人対象)」
- 7日 「学びラウンジボランティア養成講座 日本画」
- 8日 「ものづくりワークショップ クリスマスリースを作ろう」
- 23日 「園芸実践講座 (第5回)」
- 25日 「地球教室と恐竜のペーパークラフト」
- 1月12日 「園芸実践講座 (第6回)」
- 12日 「バラの接ぎ木講習会 (成人対象)」
- 19日 「ものづくりワークショップ 岩絵の具を作ってみよう」
- 26日 「親子でアロマセラピー」
- 2月 9日 「園芸実践講座 (第7回)」
- 9日 「園芸講座・ロープワーク実習 (成人対象)」
- 24日 「ものづくりワークショップ ひな人形を作ろう」
- 3月23日 「もうすぐ1年生」
- 24日 「刺繍の小物を作ろう」

○平成30年度体験キット貸出件数

(単位:件)

体験キットの種類	貸出件数	体験キットの種類	貸出件数
明かりを灯そう	405	こまをまわそう	756
磁石に触れよう	836	植物を観察しよう	445
色を作ろう	549	昔の文字で遊ぼう	268
歯車を回そう	643	錯覚を体験しよう	324
静電気を作ろう	482	お弁当をつくろう	1,073
空気の力を知ろう	1,267	荒川区を見てみよう	257
図形を作ってみよう	746	文字を組み合わせよう	282
幾何学模様を描こう	985	鏡の不思議	557
パズルに挑戦しよう	936	合 計	10,817

○平成30年度の企画展示

ゆいの森あらかわ3階企画展示室では、さまざまな展示を行いました。

- ・おしどり文学館協定締結1周年記念 荒川区・福井県合同企画展 津村節子展 生きること、書くこと (10月20日～12月19日)。併せて、文学館学芸員による展示解説も実施(11月3日、12月5日)
- ・館蔵資料展 吉村昭と北海道―北へ注がれる視線―(2月15日～4月7日)
- ・プラモデルとパッケージ原画展～昭和のプラモデルからドローンまで大集合～(7月21日～9月9日)

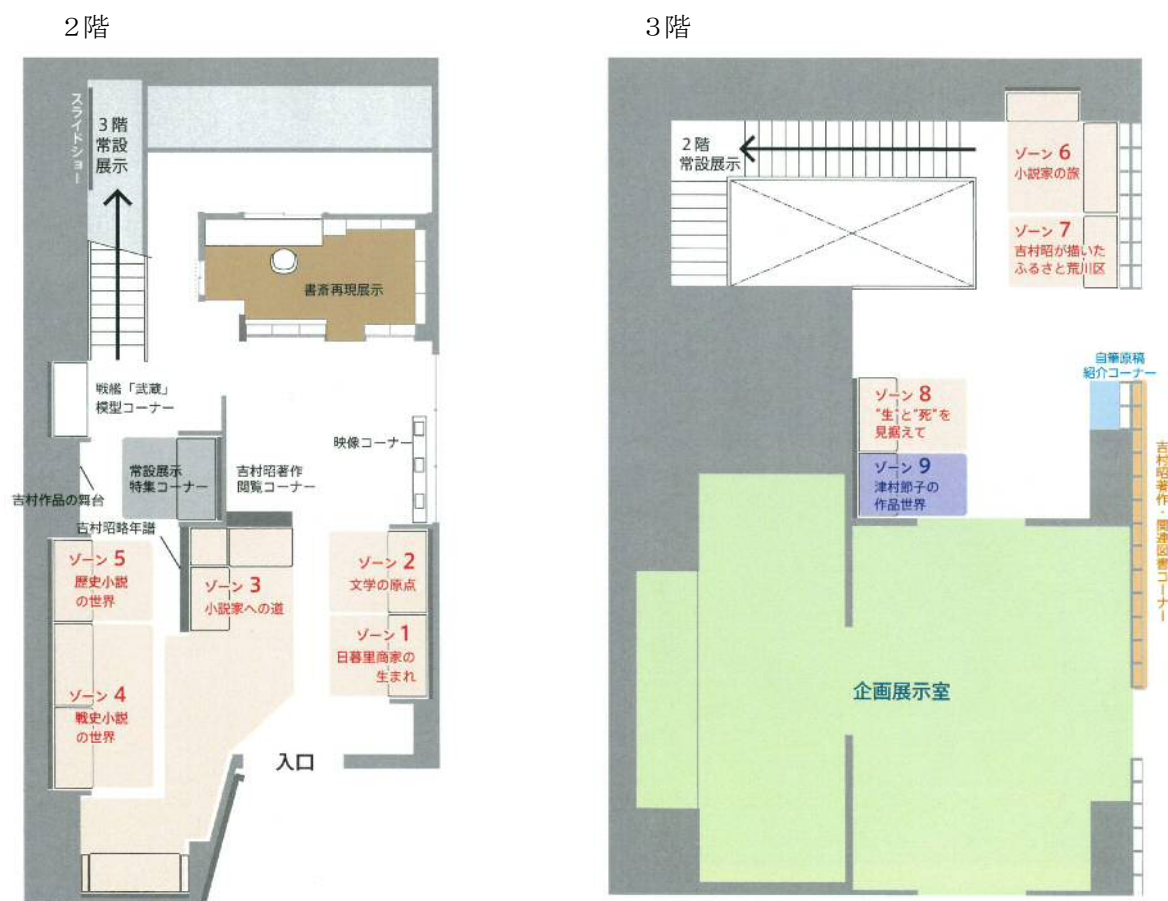
## ウ 吉村昭記念文学館

吉村昭記念文学館は、吉村昭(昭和2年～平成18年)の功績を顕彰し、吉村文学を契機として幅広い文化領域と連携し、区の文化のさらなる振興へ寄与することを目指しています。

### ○吉村昭記念文学館の目的

- ・吉村昭の功績を顕彰し、その作品世界を研究する  
吉村文学に関する研究拠点として、関連資料の収集・保存・公開をはじめとする様々な活動を展開することにより、吉村の作品が、広く、永く、読み継がれることに貢献します。
- ・吉村文学に親しみ、文学を通して心を育む場を作る  
様々なテーマを持つ吉村文学に親しむとともに、吉村文学を契機として更に広範な文学に親しみ、心を豊かにし、知的好奇心を満足させることができる空間を提供します。
- ・吉村文学を契機として、幅広い文化領域と連携し、荒川区における文化の醸成を図る  
吉村文学を核として、広範な文化領域とも連携した事業を展開し、区民の文化活動の活性化と荒川区における文化の醸成に寄与します。
- ・吉村文学を育んだ荒川区の魅力を内外に発信する  
日本各地はもとより海外にも及ぶ吉村文学の舞台。これらの地域や周辺地域と交流、連携を図りながら、小説家、吉村昭の功績とその作品世界、そして、吉村氏を育んだ荒川区の魅力を内外に紹介します。

### ○フロアマップ



## ○常設展示

### ・展示ゾーン

荒川区出身の小説家、吉村昭の生涯をさまざまな資料とともに紹介します。

吉村は、昭和2年5月1日、東京府北豊島郡日暮里町大字谷中本(現東京都荒川区東日暮里六丁目)に生まれました。そして、昭和20年4月13日の空襲で家が焼失するまでの18年間を荒川区で過ごしました。幼少の頃から、家族の死や戦争、そして、自らも死の危険を伴う肋骨切除の手術を経験します。時代が大きく変化する中で、こうした体験は、若い吉村の脳裏に深く刻み込まれ、小説家を志す動機となりました。

吉村は、「死とはなにか」「生とはなにか」を主題に人間の本質を探究し、数多くの短篇・長篇の作品を執筆しました。常設展示では、自筆原稿、ノート、書簡、初出誌、著作、写真、愛用品などにより、吉村の作品世界や創作背景を紐解きます。



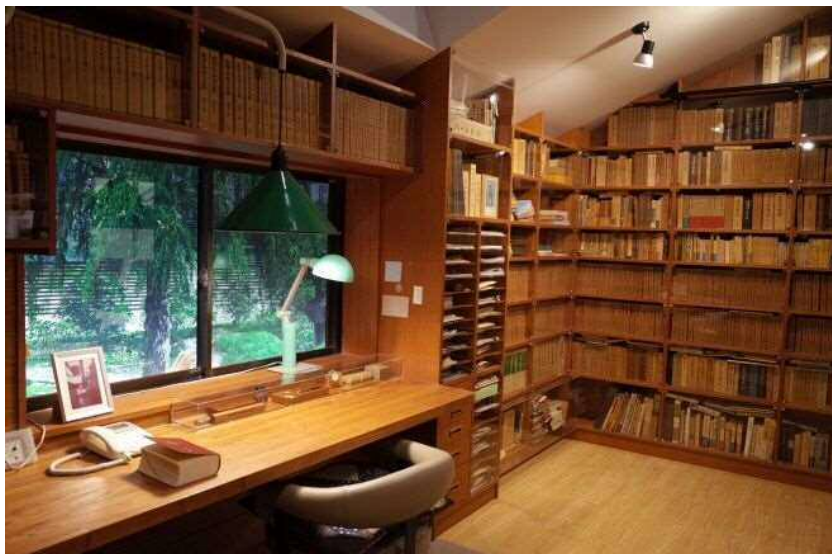
エントランス



常設展示室

### ・書齋再現展示

吉村が昭和53年から亡くなる平成18年まで使用していた書齋を再現展示しています。書棚にある書籍は、吉村が生前に使っていたものをほぼそのままの配置で展示しています。



・映像コーナー

荒川区では、平成25年度から4か年に分けて、津村節子氏や吉村と親交があった編集者、作家、取材先で出会った方々を対象にインタビューを行い、証言映像として記録してきました。このコーナーでは、証言映像のほか、作品や人柄を紹介した映像など、全10作品をご自由に視聴できます。

No.	分類	映像タイトル	時間
1	吉村昭とは	作家 吉村昭の生涯	3:02
2		人間の「生」を見つめて① 短篇小説と長篇小説	3:18
3		人間の「生」を見つめて② 吉村昭の随筆	2:49
4		吉村昭と津村節子	3:16
5	紹介映像	吉村昭とふるさと「あらかわ」	14:26
6	証言映像	北へ注がれる視線～吉村昭と北海道～	15:03
7		奥深い歴史を紐解く～吉村昭と長崎～	14:54
8		証言 作家 吉村昭	11:53
9		編集者が語る 吉村昭の作品世界	13:02
10		瀬戸内寂聴・津村節子 吉村昭を語る	17:07

・吉村昭著作閲覧コーナー

このコーナーでは、吉村の著作や当館の刊行物を閲覧できます。なお、図書の貸出は、3階「吉村昭著作・関連図書コーナー」をご利用ください。

○おしどり文学館協定締結一周年記念事業

吉村昭記念文学館は、福井県ふるさと文学館と平成29年11月5日に、「おしどり文学館協定」を締結しました。作家夫婦に関する文学館同士の連携協定としては全国で初めてのものとなります。締結1周年を記念し、平成30年度は両館において合同企画展及び講演会を開催しました。共同で広報活動を行ったほか、福井県が制作した津村節子氏(福井県ふるさと文学館特別館長・ゆいの森あらかわ名誉館長)の撮り下ろしインタビュー映像を両館で上映しました。

・合同企画展「津村節子展 生きること、書くこと」(平成30年10月20日～12月19日)

現在も精力的に執筆活動を続ける津村氏の約60年におよぶ創作活動を、様々な資料とともに振り返りました。津村氏がどのように生き、作品にどんな思いを込めて書いてきたのかを、自筆原稿や構想メモ、愛蔵品などを通じて紹介しました。

・竹下景子氏朗読会「智恵子飛ぶ」(原作:津村節子氏著作)(平成30年11月23日)

・山口昭男氏講演会「果てなき往復書簡 ― 編集者から見た吉村昭・津村節子」(平成30年11月4日)

岩波書店前代表取締役社長で吉村・津村両氏の担当編集者も務めた山口昭男氏をお招きし、担当として携わった作品や両氏との心温まる交流などをお話しいただきました。

○館蔵資料展

・吉村昭と北海道-北へ注がれる視線-(平成31年2月15日～4月7日)

北海道開拓使が設置されてから150周年の記念の年に合わせて、吉村作品を語る上で欠かせない北海道とその作品を紹介しました。今回の館蔵資料展では、平成26年度に制作し、「映文連アワード2015」において優秀企画賞を受賞した証言映像「北へ注がれる視線～吉村昭と北海道～」の映像の内容に合わせて、「赤い人」と「巖嵐」を中心に紹介しました。



### ○講演会

- ・「秘書だけが知る瀬戸内寂聴氏の素顔」(平成30年6月10日)  
瀬戸内寂聴氏の秘書で『おちゃめに100歳！寂聴さん』(平成29年、光文社)の著者でもある瀬尾まなほ氏をお招きし、人生で最良という瀬戸内氏との出会いで学んだことや、身近で接するからこそ感じられるその素顔をお話いただきました。

### ○落語会(平成31年3月17日)

- 吉村ゆかりの学習院大学落語研究会による落語会を開催しました。  
吉村は中学生の頃から落語に親しみ、上野の寄席に通っていました。また、学習院大学文芸部に所属していた時には、同人雑誌の印刷費を補うため古典落語鑑賞会を開催するなど、落語とは深い関わりがありました。

### ○スタンプラリー

- 夏休みの特別企画として、平成30年8月1日から9月2日の期間、吉村昭記念文学館・荒川ふるさと文化館で合同スタンプラリーを行いました。

### ○トピック展

- 「担当学芸員一押し」として、常設展示で紹介していない資料を、より掘り下げたテーマにより紹介しました。
  - ・吉村昭と内藤初穂―「戦艦武蔵」がつなぐ友情―(7月20日～9月19日)
  - ・津村節子『智恵子飛ぶ』の世界～高村智恵子と夫・光太郎の愛と懊悩～(前期)(9月21日～11月14日)
  - ・津村節子『智恵子飛ぶ』の世界～高村智恵子と夫・光太郎の愛と懊悩～(後期)(11月16日～1月16日)
  - ・吉村昭と東京開成中学校～昭和20年の卒業生～(平成31年1月18日～3月21日)
  - ・吉村昭と俳句(平成31年3月23日～令和元年6月19日)

### ○自筆原稿紹介コーナー展示

- 常設展示室3階の自筆原稿紹介コーナーで、吉村・津村両氏の自筆原稿等を紹介しました。
  - ・吉村自筆メモ「関東大震災と乗物」(平成30年2月16日～4月18日)
  - ・吉村自筆原稿「私のふるさと一日暮里」(平成30年4月20日～6月20日)
  - ・吉村自筆原稿「彰義隊」(平成30年6月22日～8月15日)
  - ・吉村自筆原稿「弱兵」(平成30年8月17日～10月14日)
  - ・吉村自筆原稿「夫婦同業のこと」(平成30年10月20日～12月20日)
  - ・津村自筆天候「流星雨」(平成30年12月22日～平成31年2月20日)
  - ・津村自筆原稿「三陸の海」(平成31年2月22日～令和元年5月15日)

### ○特集コーナー

- ・自然災害と人間の営み―「三陸海岸大津波」と「関東大震災」―  
自然災害をテーマにした吉村の代表的な作品「三陸海岸大津波」(原題「海の壁」)と「関東大震災」を紹介しています。これらの作品は、丹念な証言収集を経て著されており、その調査過程を自筆ノートやメモとともにたどります。  
また、全国文学館協議会の第7回(2018年度)共同展示「3. 11文学館からのメッセージ」(期間:平成31年3月1日～4月17日)に参加しました。

### ○常設展示解説

- ・吉村昭記念文学館学芸員による常設展示の解説を行いました。  
(平成30年8月1日、9月1日、10月3日、11月3日、12月5日、平成31年1月5日、2月6日、3月2日)

○資料燻蒸時の書齋展示(平成30年10月13日・14日・20日・21日)

平成30年10月11日から23日までに行なった書齋再現展示資料の燻蒸に伴い、常設展示室2階著作閲覧コーナーで特別にパネル展示を開催しました。吉村が使用した自筆の取材ノートを紹介しました。

○刊行物作成

- ・吉村昭記念文学館常設展示図録(平成30年8月)
- ・おしどり文学館協定締結1周年記念 荒川区・福井県合同企画展「津村節子展 生きること、書くこと」(平成30年10月)
- ・吉村昭記念文学館ニュース「万年筆の旅」Vol. 11(平成30年10月)
- ・吉村昭記念文学館ニュース「万年筆の旅」Vol. 12(平成31年3月)

○吉村昭記念文学館友の会

荒川区では、「吉村昭記念文学館」の情報を全国に広く発信していくとともに、この文学館が、全国の皆様から吉村文学の真髄に触れることのできる場として親しまれ、地域文化の醸成に貢献する施設となるようご支援いただくことを目的として、「吉村昭記念文学館友の会」を設立し、会員を募集しています。会員期間は、毎年度更新制とし、年度の末日(3月31日)までが会員期間となります。

年会費 個人会員 1,000円 法人会員 3,000円 賛助会員1口 2,000円より

※賛助会員は、友の会の趣旨に賛同し、寄附により活動を支援していただける個人・法人の方を対象。賛助会費は、文学館の運営費として活用いたします。

○吉村昭記念文学館友の会会員数(平成31年3月31日現在)

	個人会員・法人会員	賛助会員	合計
会員数	284	75	359

**吉村昭記念文学館友の会設立趣意書**

荒川区出身の作家・吉村昭氏は、徹底した取材と情感を抑えた文体による作品を数多く執筆し、「戦艦武蔵」や「三陸海岸大津波」などの記録文学、そして、「ポーツマスの旗」や「彰義隊」などの歴史文学の分野で我が国の文壇に確固たる地位を築きました。

吉村氏は、多感な時期を過ごした“ふるさと”である荒川区に対する強い思いを持ち続け、随筆や小説にその思いを度々記しています。

荒川区では、吉村氏の功績を後世に伝え、吉村文学を通して真実を見極める眼差しを学び、より多くの方々が文学に親しむとともに、荒川区を知り、郷土愛を育める場として、(仮称)吉村昭記念文学館の検討を重ねておりました。

この度、この文学館の設置目的を十分に満たし、さらに、図書館のような施設との併設を強く望んでおられた吉村氏の御遺志を尊重し、荒川二丁目に整備する複合施設に、平成29年春、文学館を開設することとなりました。

この施設は、全ての世代が活用できる図書館と、未来を託す子どもたちの施設と文学館が融合することにより、これまでの文学館の事業だけでなく、新しい事業の展開を目指しています。

私たちは、この文学館が全国の皆様から吉村文学の真髄に触れることのできる場として親しまれ、地域の文化の醸成に貢献する施設となることを支援するため、「吉村昭記念文学館友の会」を設立します。

平成27年 3月 7日

発 起 人

西川 太一郎 (特別区長会会長・荒川区長) 瀬戸内 寂庵 (作 家)

山崎 一 穎 (跡見学園理事長) 逢坂 剛 (作 家)

## エ 地域における読書環境の拡充

### ○図書サービスステーション

近くに図書館が無く、図書館サービスが十分行き届きにくいと思われる地域でのサービスを充実するため、現在、2箇所の図書サービスステーションを設置しています。

図書サービスステーションでは、区立図書館に所蔵しているすべての図書・雑誌・CD等の資料を借りたり、返したりすることができます。開館時間は他の地域館と同じく、火曜日～金曜日は9時30分から19時30分まで、土曜日・日曜・祝日は9時30分から17時までです。休館日は、月曜日(月曜日が祝日の場合は翌日以降の平日)、年末年始、月1回の館内整理日です。

汐入図書サービスステーションは、南千住図書館の分室として、平成19年9月8日にべるぼーと汐入東館内に開設しました。この施設は、子育て世代を中心に人口が急増している汐入地域に位置し、利用者数が非常に多いことから、平成22年12月18日にフロアを拡張するとともに、蔵書の追加を行いました。さらに、拡張したフロア部分には「柳田邦男さんおすすめ絵本コーナー」を設置しました。また、同日付けで、社会福祉協議会が運営する「汐入おもちゃ図書館子育て交流サロン」が隣接して開設されました。

また、平成25年10月1日には、書架を増設し、文庫本や実用書、育児書などを中心に2,500冊程度蔵書を増やし、座って読める席も8席に増えました。

冠新道図書サービスステーションは、日暮里図書館の分室として、平成21年11月14日に冠新道商興会の一角に開設しました。

区では荒川区子ども読書活動推進計画(第三次)における施策の柱の一つとして「読書活動を地域の活性化につなげるため、地域の担い手の育成と読書環境づくりを推進する」ことを掲げ、「地域における読書環境の拡充」を重点事業とし、今後も、地域図書館のあり方と合わせて、図書サービススポット等の設置について検討していきます。

### ○平成29・30年度 図書サービスステーション利用状況

		合計実績		一日当たり実績	
		29年度	30年度	29年度	30年度
汐入	登録者数(人)	5,010	5,400	17	19
	入館者数(人)	165,892	153,970	555	515
	貸出利用者数(人)	59,223	57,255	199	192
	個人貸出点数(点)	176,552	172,565	591	578
	図書蔵書冊数(冊)	14,205	14,066		
冠新道	登録者数(人)	2,440	2,709	9	10
	入館者数(人)	63,006	61,917	211	208
	貸出利用者数(人)	32,714	31,496	110	106
	個人貸出点数(点)	104,366	101,014	350	338
	図書蔵書冊数(冊)	11,563	10,902		

### ○あらかわ街なか図書館

荒川区では、平成30年5月27日、「読書を愛するまち・あらかわ」宣言を行い、「本が身近にあるまちづくり」を積極的に進めています。

「あらかわ街なか図書館」は、区や民間の施設に本棚や書架を設置し、区民の誰もが、いつでも、身近に本に触れられる場を提供するものです。

平成30年6月から荒川区役所1階戸籍住民課、生涯学習センター1階情報提供コーナー、子ども家庭支援センター1階子育て交流サロン内、あらかわエコセンター2階エコカフェ内等、計21か所に「あらかわ街なか図書館」を開設しました。今後も順次開設していきます。

